

## 「常民文化」

【第49号】		2026年3月 発行
真保 元	サードプレイスの変容 ——場所の動態性をめぐって——	
水上 花音	グリーンスローモビリティの受容 ——千葉市若葉区桜木地区「さくらまる」の事例から——	
天野 元喜	雨乞い龍の復活とく祭り化 ——神奈川県清川村青龍祭を事例に——	
堀江 俊郎	花傘山の造形とその変遷 ——富山県の祭礼行事を中心として——	
松舘 明	子ども行事の存続と変化のプロセス ——函館七夕行事「ローソクもらい」「タナバタまつり」を事例に——	
法木 航	地方自治体による偉人の顕彰 ——近代の太田道灌顕彰を事例に——	
三宅 元氣	記憶の「かたち」 ——福岡県内の享保の飢饉をめぐる地蔵・石碑を事例に——	
玉井 里奈	《研究ノート》 千葉県立中央博物館新収蔵資料「柳田國男 直筆原稿・メモ及び柳田宛書簡」 について	
正月谷 眞子	心意再考 ——民俗学における嗅覚研究の可能性——	
【第48号】		2025年3月 発行
荒川 祐有	フィギュアスケートにおける感覚と調和の人類学的研究 ——氷上の身体技法——	
真保 元	現代における銭湯の利用への一考察 ——サードプレイスを視座に——	
水上 花音	県営住宅自治会による夏祭りの盛衰 ——団地の高齢化論の再検討——	
新川 さら	与論島における火葬受容 ——個人の選択に注目して——	
中川 桜	「空き家」の何が問題なのか ——施策と地域社会の認識の差に着目して——	
古川 志津	《研究ノート》 少女マンガの母親像 ——「母子間の涙」の後退に着目して——	
真保 元	《研究ノート》 川崎市立日本民家園所蔵伊藤家文書「農作物日記」 ——翻刻と解説——	
正月谷 眞子	除災招福のくにおい ——「嗅がせ」の習俗を事例に——	
松本 大輝	公啓法親王と上方宮門跡との関係性 ——輪王寺宮の融和的姿勢の検討——	
【第47号】		2024年3月 発行
荒木 生	曖昧な境界でつながる「ミックス」の名乗り——マイノリティ・コミュニティの形成 と家族的類似性——	
真保 元	街のイメージの変容——溝の口駅前再開発を中心に——	
岡田 梨花	灯籠流しの変遷——鶴見区仏教婦人会主催の盆供養に着目して——	
中澤志帆子	『柳宮譜略』を捉え直す——史料の主観と認識を汲み取る——	
真保 元	川崎市立日本民家園所蔵伊藤家文書「種苗日記帳」——翻刻と若干の考察を ともに——	

正月谷眞子	〈 香る湯〉——年中行事にみる菖蒲湯と柚子湯——
松本 大輝	『 広橋兼胤公武御用日記』から見る公啓法親王の相続事情——宮門跡秩序に同調する輪王寺宮——
<b>【第46号】</b>	<b>2023年3月 発行</b>
荒川 祐有	フィギュアスケートともの——ものからみた技術と感覚——
荒木 生	包摂的「常民」概念の可能性——マイノリティによる芸術活動を読み解く——
増田 紗斗	「ことば遊び」から見る補い合い——カトリック麹町聖イグナチオ教会国際青年会の例
木下 聖三	《研究ノート》人称代名詞の格変化不可能性とファティック機能——バンヴェニスト・フッサール・マリノフスキー——
真保 元	《研究ノート》川崎市立日本民家園所蔵伊藤家文書「防除の志おり」の翻刻と若干の検討——多摩丘陵の農家の一年を探る資料として——
松本 大輝	公啓法親王からみる輪王寺宮の基礎研究——近世中期における宮門跡継承の変化——
<b>【第45号】</b>	<b>2022年3月 発行</b>
押見 皓介	ネットロアで語られる場所を巡る—考察 —いわゆる「洒落怖」の実態把握を通して—
川名 瑞希	資源観にみる暮らしと認識の変容 —ヒガンバナの利活用を事例に—
廣江 咲奈	女性雑誌の民俗学的考察 —『それいゆ』読者のライフストーリーを事例に—
木下 聖三	《研究ノート》真正な非本来性 —ハイデガーに抗しながらハイデガーと共に考える—
真保 元	《研究ノート》民俗学におけるサードプレイス論の可能性
ヘルムト・グロシュウツ ／クリスチャン・ゲーラット、 及川 祥平訳	《特別寄稿》ポストコロニアル民俗学 —博物館からのアプローチ
クリスチャン・ゲーラット	《特別寄稿》民俗学のアプローチとしてのポストコロニアリズムとは？ 解題：「ポストコロニアル民俗学 —博物館からのアプローチ」
<b>【第44号】</b>	<b>2021年3月 発行</b>
荒木 生	インターネット時代における性的マイノリティの「名乗り」と「名付け」 ——インターセクショナルリティと「ロマンティック」の観点から——
木村 ひなの	製茶農家にみる家業継承構造 ——狭山茶産地の事例から——
佐々木 涼成	伝承と創造性との関係 ——オカノモチ習俗への認識の制作過程から——
福田 麻友子	水族館における飼育生物の供養について ——新江ノ島水族館を事例として——
木下 聖三	《研究ノート》人間の条件としての真正な社会
<b>【第43号】</b>	<b>2020年3月 発行</b>
玉井 里奈	評判やつきあいという「家産」 ——千葉県館山市神余の稲作から——
木下 聖三	レヴィ=ストロースの予想について ——「真正性の水準」とは何か——
<b>【第42号】</b>	<b>2019年3月 発行</b>
荒井 浩幸	古い町並みに生きる女性の意思 ——長野県木曾路の奈良井宿、平沢集落の事例からの考察——

木下 聖三	妖術について
荒木 生	フェミニズムの新しい潮流 ——「第4派フェミニズム」
高木 まどか	遊女評判記の書き手と読み手 ——延宝期前後の吉原物を主として
<b>【第41号】</b>	<b>2018年3月 発行</b>
木下 聖三	かぐや姫はキャラかキャラクターか
川名 瑞希	彼岸花にみる生活世界——命名と名称分布から——
鈴木 彩子	山間地集落の暮らし——居住者と他出者の現状——
玉井 里奈	千葉県館山市神余における「農」の成り立ち——農業日誌の分析をもとに——
高木 まどか	遊郭・飯盛旅籠の客——田舎衆と百姓——
<b>【第40号】</b>	<b>2017年3月 発行</b>
今井 恵理	「キタミ」を探る
武井 成実	中世の死体放置をめぐる ——考古学的研究の可能性——
立花 弘基	抽象的労働に抗するという ——ニートの実践を事例に——
木下 聖三	言語ゲーム論に向けて
保坂 泰彦	地域神社の祭神と集落の結集についての試論 ——秋田県男鹿市渡部神社を事例として——
町田 歩未	家業という戦略 ——静岡県磐田市におけるお茶農家を事例に——
紅林 怜	近江毛野臣と近江臣氏
<b>【第39号】</b>	<b>2015年3月 発行</b>
岡田 伊代	製鞣革業の存続を支えるもの —東京都墨田区東墨田を事例に—
木下 聖三	もうひとつの態 —人間の自然—
紅林 怜	但馬君氏と但馬国の有力氏族
箕輪 優	享保十三年「大島規模帳」に関する考察 —薩摩藩の奄美諸島支配について—
高木 まどか	吉原遊郭における客と客
池田 浩貴	『吾妻鏡』における八幡神使としての鳩への意味付け
<b>【第38号】</b>	<b>2015年3月 発行</b>
小山 由	血液型人間分類における受容と持続の解釈について
三井 寛文	ピノキオのための試論 —物語を持つ人形の考察—
綿谷 翔太	柴又帝釈天の庚申信仰 —柴又型庚申塔の分布に関する一考察—
木下 聖三	超越的か超越論的か —柄谷行人の交換様式論をめぐる—
ウーテ・ベッヒドルフ／及川 祥平	ドイツ語圏における民俗学的・文化学的メディア研究の方法
クリスチャン・ゲーラット 共訳	—映画とテレビ—
箕輪 優	近世における奄美遠島 —「公儀流人」と「鳴之口騒動」の史料検討から—
高木 まどか	吉原における客の身分 —遊女評判記を中心に—
池田 浩貴	『吾妻鏡』の動物怪異と動乱予兆 —黄蝶群飛と鷺怪に与えられた意味付け—
<b>【第37号】</b>	<b>2014年3月 発行</b>
小山 由	トーテムズムとしての血液型人間分類
段 杰	高度経済成長期以降の佐久地方における養鯉業の展開
木下 聖三	文化という言葉の効能について

及川 祥平	ハンブルク大学民俗学／ 文化人類学研究所における民俗学教育について
<b>【第36号】</b>	<b>2013年3月 発行</b>
山口 拓	県人会活動における出身地と現居住地 —同郷者集団の新たな分析的枠組みを視野に入れて—
生井 達也	「現実」を生きる「夢追い」フリーター “Dream-pursuing” freeter living in “reality”
佐藤 恵里	男女共学と男女平等の不一致の研究 —埼玉県男女共学・別学共存運動を事例に—
クリスチャン・ゲーラット	民俗学の立場から見る第 15 回ドイツ語圏日本研究者会議
木下 聖三	二つの現実 —リアリティとアクチュアリティ—
<b>【第35号】</b>	<b>2012年3月 発行</b>
三井 寛文	文化現象としての疑似科学考察
クリスチャン・ゲーラット	民俗学の研究方法としての権威的知識理論
木下 聖三	受苦者の連帯可能性 —暗闇の中の跳躍—
加藤 秀雄	日本におけるマクスム・ゴーリキーのフォルクローラ論受容について
<b>【第34号】</b>	<b>2011年3月 発行</b>
立花 弘志	経済の離床を考える —イリイチの「シャドウ・ワーク」を手がかりに—
小澤 葉菜	「河童」のイメージの変遷について —画像資料の分析を中心に—
鈴木 権人	<パロディ>によるサブカルチャー再考 —『さよなら絶望先生』を例に—
木下 聖三	純粋な暴力 —生命を占有しているという事実—
荒 一能	瀬戸内海漁村における女性の働き —畑作の消滅と漁業の専門化から—
玄蕃 充子	福島県いわき市江名における漁業の変容 —漁村社会の把握にむけて—
堀口 祐貴	おどけ者話研究の展開のために
田村 明子	文献資料から見る石上神宮の鎮魂と鎮魂祭 —古代から近現代の資料を中心とした考察—
中江 圭	和同開珎銭に関する一考察 —東洋史からみた銭文の読み順を中心として—
<b>【第33号】</b>	<b>2010年3月 発行</b>
村松 彰子	「沖縄的な知」は商品なのか —人びとの日常的なくつなぎの視点から—
今関 光雄	反転再生する時空間 —メディアとフィールドワーク—
中江 圭	新しいミュージアム構想に関する一提言
木下 聖三	都市と後背地 —生存の基盤と生活の基層—
加藤 秀雄	役割交替とく伝承の観念の相関性 —主婦権と当屋の「ワタシ」儀礼周辺から—
<b>【第32号】</b>	<b>2009年3月 発行</b>
及川 祥平	武田信玄伝説の予備的考察 —『甲斐伝説集』と『山梨県の武田氏伝説』にみる樹木伝説の分析から—
駒井 洋子	「ヤップ文化の再活性化」と観光化 —ミクロネシア連邦ヤップ州の事例から—
木下 聖三	生活世界の憑在論 —すべては小さな所作の中に—
佐山 淳史	死生観の沿革に関する一考察 —往生伝にみる僧の命日から—
中江 圭	天武朝の貨幣政策について
加藤 秀雄	蔵と個室 —「施錠」される空間について—

<b>【第31号】</b>	<b>2008年3月 発行</b>
岡野 宣勝	戦時下ハワイにおける米軍の沖縄移民研究 ー米国文化人類学者が紡ぎ出す民族論と心理作戦ー
加藤 秀雄	鍵あるいは錠の文化史的研究のために・序論 ーテキストとフィールドに見るその象徴性ー
及川 祥平	近世絵画史料の分析を通して見る「くだん」 ー「託宣型かわら版」とのかかわりを視座にー
今関 光雄	フラグを立てる インターネットにおける偶有性と遡及=遂行的秩
木下 聖三	理由なき抵抗 ー普通に生きるということー
北河 直子	「地芝居としての子供歌舞伎」
林 洋平	モイドン再考 ー祖霊祭祀論を越えて
吉井 勇也	蚕神社の基礎的研究 ー『上野国神社明細帳』の分析からー
山 久登	将軍家鷹場鳥見と藩領在地代官
<b>【第30号】</b>	<b>2007年3月 発行</b>
曾我部 一行	兄妹始祖神話再考 ～生まれ出ずるものを中心として～
五味 久実子	村落における同族の維持と変化 ー山梨県高根町の事例よりー
木下 聖三	魂に対する態度 ー純粋なパフォーマンスー
今関 光雄	ミクシイのコミュニケーションデザイン ソーシャルネットワーキングサービスにおける複数性・〈特定/匿名性〉・受動性 ー
高木 大祐	「殺生」と「供養」の間
田中 澄玲	月峯と芝居
赤堀 由佳	江戸時代における狛飼育について
<b>【第29号】</b>	<b>2006年3月 発行</b>
田口 亜紗	学校保健室の系譜 ーその空間機能の変遷に関する予備的考察ー
野口 文子	企業における針供養
林 絢子	江戸における地方文化の流入 ー『北越雪譜』出版をめぐるー
曾我部 一行	獣皮と死
及川 祥平	「現代伝説」をめぐる ーメディアの影響を視座にー
木下 聖三	世界を味わう ーさまざまな同一体制の下でー
相川 浩昭	氏寺の中世的展開 ー『建内記』にみる浄蓮華院の役割を通してー
今野 大輔	「癩病」を取り巻く視線 ーハンセン病の民俗学的研究の可能性ー
<b>【第28号】</b>	<b>2005年3月 発行</b>
村尾 美江	神前結婚式と「水嶋流」の影響
青柳 恵実	中国の勇武女子像
樋口 裕二	埋葬状況からみた在日ムスリムコミュニティ
関口 由彦	「新たなエスニシティ論へ向けて」
木下 聖三	人間関係が相互転換される場所 ー共同体概念の再生に向けてー
北河 直子	痴呆症高齢者への回想法
山野井 健五	朽木氏公事における夫役について
<b>【第27号】</b>	<b>2004年3月 発行</b>
駒井 洋子	人の移動と地方文化の客体化 ーミクロネシア連邦の事例よりー

村尾 美江	戦後の「結婚の簡素化」と民主化 －香川県高松市多肥町の事例から－
藤 大祐	草木塔の現代における意義
木下 聖三	独我論 －自己指示の不可能性－
佐藤 智敬	五島列島・花島のカクレキリシタン御帳箱 －大小瀬末福文書の分析を通して－
<b>【第26号】</b>	<b>2003年3月 発行</b>
永島 恵	近世庶民における情報伝播の一考察 －勸化本『新撰善悪因果集』の分析を通じて－
今関 光雄	「民俗と情報」についての覚え書き
木下 聖三	人間は虚空間に住まう －構造主義の帰結－
板橋 悦子	静岡県におけるイルカ漁・イルカ食
佐藤 智敬	五島列島・花島における点在集落の歴史 －脱カクレキリシタン史の視点－
<b>【第25号】</b>	<b>2002年3月 発行</b>
村松 彰子	紅型の歴史と染色技術
大日野 佳代子	沖縄県八重山郡の赤マタ・黒マタを取り巻く社会的文脈と秘儀性保持の戦略
木下 聖三	物事をもっと客観的に見る －民族学の視点－
川名 里奈	近代初期における民衆宗教の信仰形態について －金光教テキスト『御道案内』を素材に－
板橋 悦子	近世におけるイルカ食の効能 －本草の分析を通して－
佐藤 智敬	「日先」神社と摩利支天の伝承
<b>【第24号】</b>	<b>2001年3月 発行</b>
蔡 文高	洗骨改葬から焼骨改葬へ －豊見城村字高安の葬法の変遷に関する一考察－
川又 俊則	昭和前期の宗教結社と地域社会 －荒川区の事例より－
矢島 妙子	「よさこい」の祭りにみる地域性についての人類学的考察
佐藤 智敬	栃木県における柿本人麻呂解釈の展開 －宇都宮大明神と人丸神社－
今井 昭彦	会津少年白虎隊士の殉難とその埋葬
木下 聖三	問いの空間を確保する －ファノンの最後の祈り－
松岡 恵子	『園太暦』にみる公武交渉 －「武家執奏」を中心に－
<b>【第23号】</b>	<b>2000年3月 発行</b>
越川 次郎	『日朝さん』の信仰と目薬 －ある民間療法現在の現在について－
矢島 妙子	「よさこい祭り」の地域的展開 －その予備的考察－
十津 守宏	解放者としてのイエス －史的イエスの使信にみられる差別撤廃への意志－
宮本 升平	除疫呪符についての一考察 －その縁起譚の比較を通して－
長谷川 照	安土桃山 ～江戸初期に於ける『かぶき者』とその系譜に連なる者
山崎 久登	江戸近郊農村の農民負担の一考察 －武蔵国荏原郡太子堂村の場合－
<b>【第22号】</b>	<b>1999年3月 発行</b>
前田 俊一郎	地域社会における墓制の重層的構造 －近代以降の共同墓地と公園墓地の形成をめぐる－
十津 守宏	歴史の聖化 －原始キリスト教の終末論における黙示文学の克服－

高橋 桃子	『蔭涼軒目録』に見える同朋たち —蔭涼軒主の職掌をめぐって—
<b>【第21号】</b>	<b>1998年3月 発行</b>
中野 紀和	都市部中心地域の変遷 —或る夫婦の語りを軸に—
前田 俊一郎	近代行政史料にあらわれた葬制の民俗学的考察 —府県伺にみる民俗と法—
美甘 由紀子	大根をめぐる民俗 —ハレの日での使われ方を中心に—
佐藤 智敬	神社由緒と伝説解釈 —茨城県の源頼義・義家伝説の記述の変化を通して—
佐々木 和美	中世流罪考
松岡 恵子	南北朝期公武関係の一側面 —崇光天皇の大嘗会の事例から—
<b>【第20号】</b>	<b>1997年3月 発行</b>
玉田 幸久	伝承をかたちづくるもの
丸谷 仁美	女人講の組織とその変遷 —千葉県香取郡大栄町一坪田の事例を中心に—
今井 昭彦	越後小出戊辰戦役における戦死者祭祀
平田 秀勝	江戸における岡場所の変遷
<b>【第19号】</b>	<b>1996年3月 発行</b>
前田 俊一郎	両墓制の誕生とその後 —明治期に成立した両墓制を考える—
川又 俊則	ライフヒストリー研究の断層 —特に方法論に関して—
伊藤 由佳子	調査報告「横浜市緑区寺山町のジシムイ」
猿渡 土貴	山中明神安産祭りの素描
高橋 桃子	夢窓疎石の禅 —その生涯と『夢中間答』から—
<b>【第18号】</b>	<b>1995年3月 発行</b>
猿渡 土貴	シキタリと伝統の間で —修正鬼会に対する意識の変化に関する試論—
川又 俊則	キリスト者の先祖祭祀への対応
吉原 睦	複檀家制の術語設定について
大 智子	上野寛永寺弁天堂の諸碑をめぐって
蔡 文高	中国福建省西部客家の婚姻習俗
広瀬 豊	国民としての常民 —民俗学における「近代」研究のための試論—
<b>【第17号】</b>	<b>1994年3月 発行</b>
川又 俊則	死者儀礼のキリスト教的意味付け —大森めぐみ教会の事例より—
大友 由紀子	個人的支出からみた直系家族における役割構造の変化 —長期反復調査データによる三世代比較—
塩月 亮子	海人の禁忌 —沖縄本島宇備瀬と宇糸満との比較を通して—
菅野 剛宏	海苔製造家の生業複合 —千葉県浦安市を事例として—
野村 幸代	儀礼食としてのモチに関する一考察 —長野県塩尻市小曾部を事例として—
丸谷 仁美	昔話『瓜子姫と天邪鬼』の地域比較
<b>【第16号】</b>	<b>1993年3月 発行</b>
大友 由紀子	村落社会におけるサポート・ネットワークの研究(下) —高齢女性の生活史と家族・親族ネット・ワーク—
松崎 かおり	女性の積み立て頼母子講について —輪島市河井町・輪島崎町を事例として—
竹内 由紀子	重層する食生活 —新潟県北部一農村の「ゴツツォ」を事例に—

渋谷 研	沖縄の冥界婚(グソーヌニービチ)からみる女性の地位 — 家、門中の帰属を中心に —
新垣 智子	沖縄における女性の集団帰属をめぐって
森田 真也	沖縄久高島の巡拝儀礼と穀物起源説話 — ウブヌシガナシヌウガンタテとウブクイー —
合原 香須美	近代における出産習俗の変容 — 福島県石川郡石川町を事例に —
渋谷 美芽	推古朝の政治的段階について
<b>【第15号】</b>	<b>1992年3月 発行</b>
泉水 英計	波照間島における東西双分観の批判的検討
新垣 智子	沖縄の柴差行事 — その変遷に関する一考察 —
森田 真也	1990年のイザイホー — 久高島のイザイホー中止に関する報告 —
長谷川 容子	今日に見られる贈り物の包み
<b>【第14号】</b>	<b>1991年3月 発行</b>
川部 裕幸	M.エリアーデの宗教シンボル論 — その方法論を中心として —
泉水 英計	甌島昔話資料 — 53年間にわたる伝承のテキスト —
森田 真也	フィールドワークと調査地被害
大友 由紀子	村落社会におけるサポート・ネットワークの研究(上) — その調査デザインへ向けて —
竹内 由紀子	「食習調査」成果についての一考察
渋谷 研	香典帳にみる親族間の交際
<b>【第13号】</b>	<b>1990年3月 発行</b>
木鎌 節子	韓国における天主教の土着化 — 江原道横城郡横城天主教会の事例 —
金野 啓史	唐桑のハヤマ信仰
渋谷 研	ノロ、ユタ再考 — 憑依・相剋・変容の視点から —
高 苗青	日本人の先祖とその祭祀
<b>【第12号】</b>	<b>1989年3月 発行</b>
小川 美保	「ハイカラ」とは何か — 西洋文化摂取の二様相として —
小沢 詠美子	江戸武家地研究への試み — 芝愛宕下をめぐって —
八木橋 伸浩	近世後期の香具師集団 — 秩父商栄組合(埼玉県秩父市)所蔵文書から —
森田 晃一	江戸町名主関係資料 — 『名主代替組合特月行事特場所取帳』 —
<b>【第11号】</b>	<b>1988年3月 発行</b>
大友 由紀子	農村流出者と故郷帰属 — 群馬県吾妻郡六合村生須の場合より —
大崎 茅	個人の日常的つきあい関係について — 埼玉県比企郡小川町下里島根在住の一話者による記録の分析を通して —
小山 雅之	中世の寺社における閉門
吉越 笑子	笑祭に関する一考察 — 山口県防府市小俣のお笑い講の事例 —
白水 寛子	霊友会の支部・法座及び入会者数 — 昭和9年から10年まで —
<b>【第10号】</b>	<b>1987年3月 発行</b>
久場 政彦	南島における民間医療の機能的展開
今井 昭彦	群馬県下における戦没者慰霊施設の展開
秀村 研二	韓国の擬制的親族関係覚書
小山 雅之	院政期貴族の政治思想と『愚管抄』
小沢 詠美子	江戸市中における地代・店賃の動向

<b>【第9号】 1986年3月 発行</b>	
高橋 泉	村落社会研究と民俗学
大月 隆寛	常民・民俗・伝承 ー開かれた民俗学へ向けての理論的考察②ー
喜山 朝彦	奄美と論島の沖縄的ユタと依頼者についての一考察 ーとくに観光化との関連でー
磯岡 哲也	ある新宗教女性布教師の生活史 ー信念体系受容過程を中心にー
外池 昇	陵墓の今日的課題
小沢 詠美子	社会保障制度に関する史的試論 ー旧群馬県下滝村を例にー
大月 隆寛	朝倉喬司著 『バナちゃんの唄 ーバナナ売りをめぐる娼婦とヤクザたちー』 北園忠治著 『太うして長うしてツンとした ー北やんのバナちゃん節ー』
大野 一郎	井上章一著『霊柩車の誕生』
<b>【第8号】 1985年5月 発行</b>	
D.ベン＝エイモス ／大月隆寛・訳 解説・大月隆寛	コンテクストにおける民俗＝フォークロアの定義へ向けて コミュニケーションとしての民俗
大月 隆寛	都市としての競馬 ー競馬、または競馬社会研究のための étude①ー
大野 一郎	今、両墓制とは何か ーその存続・消滅をフィールドで考えるー
磯岡 哲也	都市化文献目録
小川 徹太郎	B.ジャクソン／大石俊一・訳 『コミュニティ ーイングランドのある町の生活ー』
<b>【第7号】 1984年3月 発行</b>	
小嶋 博巳	西国巡礼行者の存在について
大月 隆寛	「異化」する視線 ー藤原新也『東京漂流』と、大友克洋『童夢』をめぐってー
細野 由美	「疾病観」に関する一考察
白水 寛子	久保角太郎の説法
鈴木 通大	『脇野沢村史民俗編』
<b>【第6号】 1983年1月 発行</b>	
磯岡 哲也	日本村落における基督教の変容 ー千葉県福田聖公会の事例ー
小松 清	霊魂と遺骸 ー岩手県九戸郡山形村における葬儀制等の民俗調査からー
森 正康	禊教教団史における一つの画期 ー井上正鐵の遺骨改葬をめぐってー
村山 健	博物館と展示 ーコミュニケーション・メディアとしての視点からー
細野 由美	ゴンボダネ事例
白水 寛子	宗教団体の出版状況
大月 隆寛	宮田登『都市民俗論の課題』
<b>【第5号】 1982年4月 発行</b>	
小松 清	続・光明寺墓地における墓制について
遠藤 可奈子	「よその子供も叱る運動」の動向について ー神戸市の場合を中心にー
白水 寛子	西田利蔵説再考
喜山 朝彦	位牌祭祀についての予備的報告 ー東京都八王子市別所の事例ー
秀村 研二	丸山孝一著『カトリック土着 ーキリシタンの末裔たちー』
<b>【第4号】 1981年3月 発行</b>	

山本 質素	サワの協力と社会生活 —岩手県江刺市梁川東沢目の地縁組織—
服部 守史	境川流域のジミョウと組合 —大和市大字上和田の事例から—
高橋 泉	神奈川県 of ジルイ
外池 昇	天皇制研究の視点
喜山 朝彦	姫岡勤他編『むらの家族』
<b>【第3号】</b>	<b>1980年3月 発行</b>
服部 守史	柳田国男の「中農養成策」に関する考察
小松 清	岩手県下の墓制 —一戸町中里の事例について—
細野 由美	憑きものに関する一考察 —飛騨のゴンボダネをめぐって—
Joy Lin Salzberg	Some Thoughts and Observations —My Experiences at Seijo University—
鈴木 通大	宮本常一著『民具学の提唱』
<b>【第2号】</b>	<b>1978年12月 発行</b>
白水 寛子	宗教運動の発生に関する一考察 —アメリカ合衆国の'60～'70年代における宗教運動の場合—
小松 清	柳田国男の「葬制の沿革について」をめぐって
小嶋 博巳	常総地方の大師まわり —成田組十善講事例報告—
恵津森 智行	九十九里浜聞書 —千葉県山武郡九十九里町—
<b>【創刊号】</b>	<b>1977年12月 発行</b>
堀川 直義	創刊によせて —統合・分散・協力の弁証法—
斉藤 哲雄	ファシズムと天皇制支持者の性格構造の関連について —東京都23区を対象とした社会意識の第一次調査より—
大本 憲夫	宮古島村落における社会組織と祭祀組織 —平良市松原の事例—
小島 清志	村落社会における外来宗教の受容 —沖縄・宮古島保良の事例を中心に—
藤井 せい子	ペザント・マーケットと社会変化 —沖縄県宮古島平良市の事例から—
岩崎 真幸	モリ信仰におけるハヤマ的性格について —山形県鶴岡市清水における「モリ供養」の事例報告—